

教科名	発行者	教科書名
道徳	東京書籍	新しい道徳

上記発行者の教科書を選定した理由

子どもたちの心を揺さぶる感動的な教材や身近な話題で共感を呼ぶ教材、定番とされている教材も多くあり、各学年に適切に配置されている。

内容理解を促す発問と自己の生き方を考える発問の2つが設定されており、シンプルでわかりやすく、道徳的価値と向き合えるよう工夫されている。

多様な教材を、発達段階に合わせて配置し、児童自ら関心をもち、読み進められる配慮がされている。また、特別支援教育への配慮やユニバーサルデザインを積極的に取り入れている。現代的な教育課題（情報モラル、いじめ、安全・防災教育など）への取り組みの教材も適切にバランスよく配置されている。

さらに、発問についてもねらいや児童の実態、教師の願いによって、比較的自由に設定することができ、「わたしたちの道」などの他の資料とも併用しやすい内容となっている。

まとめや振り返りについては、毎時、学期毎に自己評価できるようになっていて、年間を通しての学習の記録としても、一目で振り返ることができるようになっている。

以上のことから、上記発行者の教科書を選定したい。

I 調査表 小学校 [道徳]

採択基準	観 点	出版社							
		東京書籍	あかつき	学研	光文書院	学校図書	教育出版	光村図書	日本文教出版
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確に盛り込まれているか。	◎	○	○	○	○	○	◎	○
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真図表、配色、コントラスト等〕	(1) 内容、程度が児童の発達段階に応ずるよう配慮されているか。	◎	○	◎	○	○	○	○	○
	(2) 関心・意欲を喚起し、道徳的価値の追求に結びつく工夫がされているか。	◎	○	○	○	○	○	◎	○
	(3) 道徳的価値の理解を自分との関わりで深め、主体的・対話的に学習できるような工夫がなされているか。	◎	○	○	○	○	○	○	○
	(4) 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を通して、多面的・多角的に考えることができるよう配慮されているか。	◎	○	◎	○	○	○	○	○
	(5) 文字の大きさ、文字数、レイアウト等は児童の発達段階に応じて配慮がなされているか。	◎	○	○	○	○	○	○	○
	(6) 全ての児童にとって読みやすさに工夫され、さし絵、写真、配色、コントラスト等が鮮明で分かりやすく、問題がとらえやすくなるよう配慮がなされているか。	○	○	○	○	○	○	◎	○
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導まとめと評価〕	(1) 児童の発達段階に即して、それぞれの内容項目の教材が適切に配列されているか。	○	○	◎	○	○	○	○	○
	(2) 児童が主体的に、相互に関わり合いながら取り組めるよう、地域や児童の実態に応じ、各学校で創意工夫して適切な指導計画が作成できるよう配慮がなされているか。	○	○	○	○	○	○	◎	○
	(3) 道徳科における見方・考え方を働かせ、現代的な課題など物事を多面的・多角的に考えるための配慮がされているか。	◎	○	○	○	○	○	◎	○
	(4) さし絵、写真等の扱いが学習指導に生かせるものになっているか。	○	○	○	○	○	○	◎	○
	(5) 学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握できるよう工夫がされているか。	◎	○	○	○	○	○	○	○
4 全体的な特色	(1) 採択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	○	○	○	○	○	○	○

Ⅱ 適当と認めた理由 小学校 [道徳]

採択基準	適 当 と 認 め た 理 由	
1 教科の目標からの配慮	(1)	子どもたちの心を揺さぶる感動的な教材や身近な話題で共感を呼ぶ教材、定番とされている教材も多くあり、各学年に適切に配置されている。 内容理解を促す発問と自己の生き方を考える発問の2つが設定されており、シンプルでわかりやすく、道徳的価値と向き合えるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 (本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等)	(1)	多様な教材を、発達段階に合わせて配置し、児童自ら関心をもち、読み進められる配慮がされている。また、特別支援教育への配慮も文章だけで理解することが難しい児童も把握しやすいように、漫画を取り入れるなど、各学年で内容の工夫がされている。
	(2)	教材冒頭では、資料名と主題名のみを記載し、発問はどの資料も2つに絞り、児童が自ら問いをもち意欲的に感じたり考えたりできる工夫がしてある。また他の教科との関連や発問内容について、道徳の時間において補充・深化・統合を大事に考えられるように、道徳的価値の追求に結びつく工夫がされている。
	(3)	「出会う・ふれ合う」では、人とのかかわりの中で考えることができる学習活動を全学年に掲載している。また、導入にオリエンテーションページ「道徳の学習を進めるために」を設け、主体的・対話的に学習ができるような工夫をしている。
	(4)	「問題を見つけて考える」では、発達段階に応じた問題を、児童自ら他者と関わりながら追求できるよう配慮されている。また、「活動型教材」を各学年に配置し、児童の多様な考えを引き出す工夫がされている。
	(5)	ユニバーサルデザインへの取り組みとして、色・形・絵柄を工夫している。本文書体は、筆遣いや字形を手書きの文字に近づけた少し太めの教科書体を使用することで読みやすくなっている。文章の量も多すぎずちょうどよい量となっている。
	(6)	児童が学習に対する興味や、問題解決の意欲を持てるよう、美しい挿絵や写真を掲載し、レイアウトも工夫し、特に余白を適度に確保したゆとりあるすっきりとした紙面となっており、集中して学べる工夫がされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い (「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランス、関連性・連続性、個に応じた指導、まとめと評価)	(1)	教材を各学年の発達段階に合わせて、指導時期や重要指導内容など適切に配列したり、教材で学んだことを自分との関わりで考えられる教材を配置したり、道徳的価値の自覚を深められる工夫がされている。
	(2)	巻頭の「道徳の時間が始まるよ」では、話し合い活動を促す内容を見開きで配置し、授業の初めに話し合いや追求のあり方など学習意欲と主体的な学習態度について学べるように工夫されている。
	(3)	現代的な教育課題への取り組みとして、「情報モラル」「安全・防災教育」「オリンピック・パラリンピック」「キャリア教育」「人権・いじめ」などの教材をバランスよく配置し、複数教材で考えられるよう配慮されている。
	(4)	巻末の付録では、折込を使った紙面で、多数の写真や資料が掲載されており、児童がなかなか目にすることができない内容も多く配置され、視覚的な理解や他教科との関わりに生かせるよう工夫されている。
	(5)	巻末に「学習の記録」「学習の振り返り」「学習のまとめ」があり、毎時・学期毎に自己評価できるようになっている。年間通しての学習の記録が分かるようになっている。
4 全体的な特色	(1)	多様な学習が進められるように教材が配置され、内容理解と自己の生き方を考える発問に精選され、児童にとって考えを深めやすくなっている。 学びを深める多様な教材や資料が付き、児童の実態や教師の願い・支援に応じて活用できるようになっている。